

2019年度学長プロジェクト

2-B「環境や社会を考慮した University Ranking」チーム合同ゼミ¹

～サステナビリティ・SDGsに関する基礎知識を学ぶ～

- 日 時： 2019年4月10日（水）16：30～18：00
- 場 所： 1号館2階1209教室
- 講演者： 笹谷秀光氏（株式会社伊藤園顧問、社会情報大学院大学客員教授）
- 内 容： 本合同ゼミのメンバーである2年生を主な対象として、笹谷氏より「SDGsの基礎」と題して講義が行われた後、ディスカッションを行った。主な内容は下記の通り。

（1）講義「SDGsの基礎」

- ・ポルトガルにポルト歴史地区という世界文化遺産がある。16世紀から今日までの建造物が調和した美しい街並み。世界文化遺産は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization : UNESCO）が進める、人類が大切にしてきた誇るべきものを後世に残そうとする取り組みであり、サステナビリティという言葉の説明するときの良い事例といえよう。
- ・サステナビリティとは、「世のため、人のため、自分のため、子孫のために未来につなごうとすること」である。SustainabilityはSustain（支える）+ability（能力）ということ。今現在のわれわれの社会には、孫の代に残せないものが多すぎる。
- ・先日訪問した大阪では、外国人旅行者をたくさん見かけた。現在、インバウンドで来られる外国人旅行者は年間3,000万人に迫る。この大阪で2025年、日本人と外国人旅行者が一緒になって、SDGsのために大阪万博を開催するのだ。
- ・これまで農水省をはじめとした省庁、伊藤園、社会情報大学院大学など「産・官・学」と言われるセクターで仕事をする中で、CSRやCSV、SDGsなどを専門とし様々な取り組みをしてきた。CSVという言葉をご存じだろうか。Creating Shared Valueの略語。2008年のリーマンショック後、「企業は儲けばかりを追求するのではなく、社会にも配慮していく必要がある」としてマイケル・ポーター教授が提唱した、「経済価値の実現と競争優位」と「社会・環境課題解決」の同時実現を目指す考え方である。
- ・日本にも同じような考え方がある。岐阜県にある白川郷では、合掌造りの家の萱葺きを地域の人々が協力して行う「結（ゆい）」という仕組みを100数十年余守り残してきた。近江商人は商売を行うにあたり「売り手にとっても、買い手にとっても、世間にとっても良い商売」という「三方よし」の考え方を大切にしていた。現代にも伊藤忠商事や西川産業など、それを受け継ぐ企業がある。
- ・この「三方よし」と併せて古文書にあるのが、良いことは黙って行うべきという「陰徳善事」の考え方。しかしこれは現代にはそぐわない。ぜひ発信型（開示型）三方よしでいこう。外国企業は発信がうまい。世のため人のために何を考えどのようなことに取り組んでいるか発信しないと、仲間は増えず、イノベーションは起こせない。
- ・経営学にPEST分析という世の中のメガトレンドを分析する方法がある。PESTはPolitics、Economics、Social、Technologyの頭文字で、現代社会をPEST分析すると次のように言える

¹ 橋本隆子ゼミ・安藤崇ゼミ・奥寺葵ゼミ（商経学部）、杉本卓也ゼミ（政策情報学部）、齊藤紀子ゼミ（人間社会学部）から構成される。

だろう。Pは「世界的なコンセンサスの崩壊とナショナリズム台頭」、Eは「ビジネスモデルの創造的破壊と産業の境界線の消失」、Sは「貧富の差の拡大と中間層の衰退」と「ビジネス、社会制度、経済に対する人口圧力、組織に対する信頼の低下」、Tは「FintecやAgritecなどテクノロジーの影響」。

- ・こうした現代社会においては、トリプルボトムラインが重要。トリプルボトムラインとは経済、社会、環境の3つを指し、決算書において収支だけではなく社会や環境へからのインパクトも考慮すべきという考え方。最近よく言われるESG（環境：Environment、社会：Society、統治：Governance）も同じ考え方に基づく。
- ・こうした中でSDGsは策定された。SDGsはつまり、持続可能な発展のための「17のやることリスト」。SDGsは5つのPで分類すると理解しやすい。

People（人間）のため…「Goal 1：貧困をなくそう」「Goal 2：飢餓をゼロに」「Goal 3：すべての人に健康と福祉を」「Goal 4：質の高い教育をみんなに」「Goal 5：ジェンダー平等を実現しよう」「Goal 6：安全な水とトイレを世界中に」

Prosperity（豊かさ）のため…「Goal 7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「Goal 8：働きがいも経済成長も」「Goal 9：産業と技術革新の基盤を創ろう」「Goal 10：人や国の不平等をなくそう」「Goal 11：住み続けられるまちづくりを」

Planet（地球）のため…「Goal 12：作る責任、使う責任」「Goal 13：気候変動に具体的な対策を」「Goal 14：海の豊かさを守ろう」「Goal 15：陸の豊かさを守ろう」

Peace（平和）のため…「Goal 16：平和と公正をすべての人に」

Partnership（パートナーシップ）のため…「Goal 17：パートナーシップで目標を達成しよう」

このSDGsは2015年に開催された国連持続可能な発展サミットでの採択文書「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」にとりまとめられたもの。サステナビリティという概念が1987年に国連の報告書『Our Common Future』ではじめて世に問われて以来、貧困根絶や環境保全などに向けて人類が取り組まねばならない目標となっている。

- ・SDGsを体感する経験がある。フランスのモンサンミシエルを数十年前に訪れたときは、海を堰き止めて観光用道路を創ったために周辺の土壌がドロドロになってしまっていた。それが今回再度訪れたときは、観光用道路は橋の上になっており、海の流れが戻ってきていた。道路を走る車は電気自動車となり、海の流れに乗って生物多様性も戻っていた。これこそ利用と保全が一緒に行われた結果であり、SDGsでいえば、「Goal 14：海の豊かさを守ろう」「Goal 11：住み続けられるまちづくりを」「Goal 9：産業と技術革新の基盤を創ろう」「Goal 4：質の高い教育をみんなに」「17：パートナーシップで目標を達成しよう」への取り組みの結果であったと言える。

（2）ディスカッション

講義を踏まえ、「あなたはSDGsをどのように理解したか（目的・内容）」「SDGsへの取り組みによりどのような社会を創れるか」という問い2つについて、学生たちはグループディスカッションを行った。そして各ゼミ代表者よりディスカッション結果が発表され、笹谷氏から丁寧なフィードバックを頂いた。

以上（文責：人間社会学部 齊藤紀子）